

1. 科目名 (単位数)	言語発達特論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP5335
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	講義・演習・文献講読	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	言語は人間を特徴づける重要な機能である。子どもは6歳くらいまでに基本的な言語能力を獲得する。言語発達に関しては数多くの研究がなされてきたが、この授業では、言語の障害までを視野に入れて、言語発達について学ぶ。また、言語発達の過程については、乳幼児の発達過程との関連を考慮しながら考察する。保育現場や相談臨床においてしばしば見られる言語障害の種類や様相などについても検討し、考察する。		
8. 学習目標	乳幼児期の言語発達について、言語のもつ基本的な機能について理解し、聴覚的発達等の生理的側面や人とのコミュニケーションの取り方などと関連づけて、総合的な理解ができることを目標とする。定型的な言語発達のみではなく、そのつまずきについての知識を広め、言語発達についての理解を深める。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	各コマで学ぶキーワードについて予め学習してから授業に臨むこと。 レポートを課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小椋たみ子・小山正・水野久美『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』ミネルヴァ書房、2015。 【参考書】 やまだようこ『ことばの前のことば』新曜社、2010。 岩立志津夫・小椋たみ子 (編)『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房、2005。 岩立志津夫 他(編著)『言語発達とその支援』ミネルヴァ書房、2006。 小林春美 他 (編)『子どもたちの言語獲得』大修館書店、2006。 秦野悦子(編)『入門コースことばの発達と障害1: ことばの発達入門』大修館書店、2007。 鹿取廣人『ことばの発達と認知の心理学』東京大学出版会、2003。 西村辨作 (編)『ことばの障害入門』大修館書店、2001。 石坂郁代他訳『コミュニケーション障害入門』大修館書店、2006。 その他、必要に応じてプリントを配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・言語のもつ基本的機能を理解しているか、 ・言語発達に関する聴覚的発達等の生理的側面を理解しているか、 ・人とのコミュニケーションに果たす言語の役割について理解しているか、 ・定型的言語発達のみならず、そのつまずきについての知識を身に付けているか、 などを総合的に判断する。 ○評定の方法 【通学】 事前学習 30%、 授業における学習課題への取り組み 40%、 期末試験 (口頭試問) 30% 【通信課程】 レポート (論文) 50%、 単位認定試験 (課題論文) 50%、		
12. 受講生へのメッセージ	言語発達は子どもの発達に関する重要な指標です。発達 (保育) 相談臨床においては、主訴の中で最も多い事項が「ことば」についてです。子どもの表出言語の状態は捉えることが容易ですが、実はそこにはさまざまな背景が関わっています。そのため、障害の発見や発達予測などの情報としても用いられています。この授業を通して、乳幼児期から学童期にかけての言語発達の様相について、総合的に理解することを目指してほしいと思います。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後、および別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	言語発達の生物学的、神経学的基礎		
	【学習の目標】 言語の発達には、その基盤としてヒトの生物学的側面、神経学的側面が必要とされる。その様相を学ぶ。 【学習の内容】 言語の発達には、脳機能、呼吸調節、音声器官の調節、神経学的成熟が必要であることを知る。 【キーワード】 脳機能、声帯運動、呼吸調節、音声器官の調節、神経学的成熟 【学習の課題】 ヒトの様々な器官が言語産出に寄与していることを、図書の講読によって学ぶ。 【参考文献】 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』、2006。 石坂郁代他『コミュニケーション障害入門』、2006。 【学習する上での留意点】 言語の産出には、生体の複雑な機能が協応し関与していることを知る。		
2. テーマ	言語発達の社会的基礎		
	【学習の目標】 言語発達には、社会的環境のなかで人との交流が必要である。その実態について知る。 【学習の内容】 子どもを取り巻く社会的環境を考察し、言語発達との関連を考える。 【キーワード】 新生児期母子交流、愛着、対人関係、幼稚園、保育所、学校 【学習の課題】 新生児期の対人交流は多層的であるが、その状態を理解し、発達とともに社会的環境が複雑化していくことを理解する 【参考文献】 やまだようこ『ことばの前のことば』、2010。 山内光哉『発達心理学 上(第2版)』ナカニシヤ出版、1998。 鹿取廣人『ことばの発達と認知の心理学』、2003。 小椋たみ子・小山正・水野久美 (著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』、2015。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』、2006。 秦野悦子(編)『入門コースことばの発達と障害1: ことばの発達入門』、2007。 【学習する上での留意点】 社会的環境は、家族間の交流から始まり、家庭、家族外成員、子ども集団 (幼稚園、保育園、学校、その他) に拡大していくことを念頭に考察を深める。		
3. テーマ	0歳代のコミュニケーションおよび発声行動の発達		
	【学習の目標】 0歳代のコミュニケーション、発声行動の発達を理解する。 【学習の内容】 0歳代のコミュニケーション、発声行動の発達の様相を理解する。		

	<p>【キーワード】 発声活動、喃語、ジャーゴン、初語</p> <p>【学習の課題】 発達初期の発声行動から喃語、有意味語の出現の時期までの経過について参考文献を参照して要点を簡単にまとめる。</p> <p>【参考文献】 やまだようこ『ことばの前のことば』2010年。 鹿取廣人『ことばの発達と認知の心理学』2003。 石坂郁代他訳『コミュニケーション障害入門』2006。 山内光哉『発達心理学 上(第2版)』1998。 小椋たみ子・小山正・水野久美(著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』2015。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 小林春美他(編)『子どもたちの言語獲得』2006。</p> <p>【学習する上での留意点】 0歳代の発声行動は加齢に伴い、変化していく。この時期は子どもの言語活動が成立していく時期として非常に重要である。広く発達全般に視野を広げて理解する。</p>
4. テーマ	初期言語発達と認知発達
	<p>【学習の目標】 初期の言語発達を支える認知機能の発達を理解する。</p> <p>【学習の内容】 象徴機能の獲得とその発達を視野にいれ、言語発達を考察する。</p> <p>【キーワード】 象徴機能、表象、身振り、指差し、ふり遊び</p> <p>【学習の課題】 認知的機能の発達と対応させつつ言語発達の経過をみる。</p> <p>【参考文献】 鹿取廣人『ことばの発達と認知の心理学』2003。 やまだようこ『ことばの前のことば』2010。 小椋たみ子・小山正・水野久美(著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』2015。 石坂郁代他訳『コミュニケーション障害入門』2006。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 小林春美他(編)『子どもたちの言語獲得』2006。</p> <p>【学習する上での留意点】 生後2年間の言語発達について、その概略を年齢段階で区切りながら整理すると理解しやすい。</p>
5. テーマ	語彙の獲得
	<p>【学習の目標】 初語が出現した後は2,3歳頃に語彙は急速に増加していくが、その様相を理解する。</p> <p>【学習の内容】 語彙の増加の様相について資料(文献等)を通じて理解する。</p> <p>【キーワード】 初語、語彙、理解言語、表出言語</p> <p>【学習の課題】 語彙の獲得についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』2015年。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 小林春美他(編)『子どもたちの言語獲得』2006。 その他、言語発達に関する図書は多いので、それらも参考にするとよい。</p> <p>【学習する上での留意点】 語彙の獲得は意味の理解にささえられていることを理解する。</p>
6. テーマ	2語発話から構文へ
	<p>【学習の目標】 文の原初的形態と考えられる2語文から整った文の発語まで継続して発達していく。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 2語文以降の文発話の発達について知る。</p> <p>【キーワード】 2語文、文構造、助詞、疑問文</p> <p>【学習の課題】 事例の観察報告を参照しつつ、文構造の発話の発達を理解する。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』2015年。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 小林春美他(編)『子どもたちの言語獲得』2006。 秦野悦子(編)『入門コースことばの発達と障害1:ことばの発達入門』2007。</p> <p>【学習する上での留意点】 文を用いたコミュニケーションが可能になることにより、子どもの他者との交流は急速に進む。身近にいる子どもの言語行動を年齢と照らし合わせながら観察するとよい。</p>
7. テーマ	会話の発達
	<p>【学習の目標】 他者とのコミュニケーションで会話を交わすことは、学習および社会的能力の発達にとって欠かすことができない。この様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 会話の原型は乳児期の吸乳行動に既にみられるという指摘もある。会話能力の発達には笑い、発声など様々な媒体を使った対人的なやりとりも寄与していることも視野に入れて、会話能力の発達を理解する。</p> <p>【キーワード】 会話成立の前提、話者の交代、会話の開始と終結、会話能力の発達</p> <p>【学習の課題】 会話能力の発達についてその概要を理解する。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著)『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』2015。 やまだようこ『ことばの前のことば』2010。 岩立志津夫・小椋たみ(編)『よくわかる言語発達』2005。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の子どもの会話を記録するとよく理解できる。</p>
8. テーマ	語りの発達
	<p>【学習の目標】 言語能力が発達するにつれ、時間的に連続した出来事を順序づけて話すことができるようになる。その発達の様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 2歳ころから語ることが少しずつできるようになり、認知的能力を基礎として発達を続けるが、その過程を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 過去の体験についての語り、因果関係、時間的關係、物語技法、物語経験</p> <p>【学習の課題】 語りを円滑に展開していくためには、認知的能力が関与していることを理解する。</p> <p>【参考文献】 鹿取廣人『ことばの発達と認知の心理学』2003。 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 秦野悦子(編)『入門コースことばの発達と障害1:ことばの発達入門』2007。</p> <p>【学習する上での留意点】 保育場面における記録等にも目を通すと良い。</p>
9. テーマ	読み書き能力の発達
	<p>【学習の目標】 3歳までに文字を読むことに関心を示すようになり、3歳ころから文字らしいものを書くようになるが、その後、学齢期になると読み書き能力の獲得の意義を子ども自身がわかり、知覚・認知・運動機能の発達と関連しつつ読み書き</p>

	<p>能力が発達していく。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 3歳、4歳、5歳 および小学生低学年の読み書き能力の発達の様相について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 文字環境、ひらがなの獲得、漢字の熟知度</p> <p>【学習の課題】 文字の読み書き能力の発達を概観する。</p> <p>【参考文献】 岩立志津夫他(編著)『言語発達とその支援』2006。 内田伸子『新心理学ライブラリー2 幼児心理学への招待：子どもの世界づくり』サイエンス社、2003。 垣花真一郎『幼児の仮名文字の読み習得に影響する文字側の諸要因 発達心理学研究』2015年、26(3), pp.237-247。</p> <p>【学習する上での留意点】 文字学習についての実態研究をみると、文字学習の状況が理解できる。</p>
10. テーマ	環境的剥奪による言語発達遅滞
	<p>【学習の目標】 ことばを獲得するためには、適切な対人交流の中で十分な言語刺激を受け取る必要がある。言語発達を支える生育環境を奪われた場合の言語発達遅滞について知る。</p> <p>【学習の内容】 環境的剥奪を経験した子どもの言語発達遅滞について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 初期環境、臨界期、母性的養育喪失、発達過程</p> <p>【学習の課題】 成長の過程で適切な養育環境を剥奪された事例について、その回復過程を学習する。</p> <p>【参考文献】 小林春美他(編)『子どもたちの言語獲得』2006。 中野善達訳編『アヴェロン野生児研究』福村出版、1980。</p> <p>【学習する上での留意点】 言語の獲得には、種々の条件が必要なことを事例的に学習する。</p>
11. テーマ	言語障害発生のメカニズム
	<p>【学習の目標】 コミュニケーションは、神経学的発達、聴力、発語器官の機能、発話体験、対人的交流、社会的体験など様々な側面に支えられて発達するが、どの側面に問題が生じても言語障害が生じる。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 言語の産出および受容の側面から言語障害が生じる状況を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 言語障害の種類、聴力、言語の受容・表出</p> <p>【学習の課題】 話者が発話し、聞き手が理解し、それに対応するプロセスのどの段階においても問題が生じると言語障害が生じることを分析的に理解する。</p> <p>【参考文献】 西村辨作(編)『入門コースことばの発達と障害1：ことばの発達入門』2001。</p> <p>【学習する上での留意点】 言語障害には障害される側面の違いから様々な種類があることを理解する。</p>
12. テーマ	言語障害 (1) 構音障害
	<p>【学習の目標】 構音の発達について知り、構音障害の様態について様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 構音の発達および障害について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 構音障害、口唇・口蓋裂、構音検査</p> <p>【学習の課題】 子どもの言語障害の中で多くみられる構音障害について、その概要を理解する。</p> <p>【参考文献】 飯高京子、若葉陽子、長崎崎(編)『講座言語障害児の診断と指導第1巻 構音障害の診断と指導』学苑社、1987。 笹沼澄子(編)『発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論』医学書院、2007。</p> <p>【学習する上での留意点】 基本的に健常児における構音の発達が構音障害の診断にとって重要な指標となることを理解する。</p>
13. テーマ	言語障害 (2) 吃音
	<p>【学習の目標】 吃音は、遺伝的、生理的、言語的、心理的要因が複雑に絡んで発症すると考えられている。ここでは、吃音の発症、進展過程について知るとともに、発達途上の言語表出のなめらかさの欠如の場合の保育者の対応の基本について理解する。</p> <p>【学習の内容】 言語発達途上における言語表出のなめらかさの欠如、吃音の病因論、吃音発症年齢、生理的要因との関連、吃音の進展、自然治癒等について理解する。</p> <p>【キーワード】 遺伝的要因、生理的関与、言語的研究、吃音進展、吃音治療</p> <p>【学習の課題】 近年の病因論について理解するとともに、さまざまな治療方策があることを理解する。</p> <p>【参考文献】 飯高京子、若葉陽子、長崎崎(編集)『講座言語障害児の診断と指導 第3巻 吃音の診断と指導』学苑社、1990。 都筑澄夫(編著)『言語聴覚療法シリーズ13 吃音』建帛社、2001。</p> <p>【学習する上での留意点】 吃音には様々な要因が影響することを知り、治療の方法としてはさまざまな対応があることを理解する。</p>
14. テーマ	言語発達と児童文化財 (1) 絵本、言葉遊び等
	<p>【学習の目標】 幼児期の言語発達と従来からある児童文化財である絵本や言葉遊びの関連について考える。</p> <p>【学習の内容】 わが国の従来からあることばにかかわる児童文化財についての理解を深め、それが子どもの言語発達をはじめ発達全体にもたらす影響について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 絵本、言葉遊び</p> <p>【学習の課題】 幼児期の発達とともに対象となる絵本や言葉遊びはどのように変化するかについて概観する。</p> <p>【参考文献】 横山真貴子『絵本の読み聞かせと手紙を書く活動の研究：保育における幼児の文字を媒介とした活動』風間書房、2004。 保田恵莉『保育者のまなざし(3) 乳幼児の心を育む絵本研究：創作絵本を通じた読み聞かせから』幼年児童教育研究27、2015年、pp.1-12。 磯野久美子『幼児期の読み聞かせによる絵本体験のもつ意味：絵本を通じた人とのつながりを中心に』幼年児童教育研究27、2015年、pp.25-33。 その他、児童文化財と子どもの関わりに関する図書は多いので、それらも参考にするとよい。</p> <p>【学習する上での留意点】 保育場面における絵本の読み聞かせや言葉遊びの場면을観察して参考にすると良い。</p>
15. テーマ	言語発達と児童文化財 (2) 電子媒体遊び等
	<p>【学習の目標】 昨今では、遊びも変化してきた。PCなどを用いた電子媒体遊びが幼児期の子どもの間でも一般的になっている。ここでは、近年の児童文化財と子どもの言語発達との関連について考える。</p> <p>【学習の内容】 子どもを取り巻く言語的環境の変化が子どもに及ぼす影響について検討する。</p> <p>【キーワード】 電子媒体遊び、映像、TVアニメ</p> <p>【学習の課題】 子どもを取り巻く言語的環境の変化について、広く映像やゲーム、TVアニメなどを資料として考察する。</p> <p>【参考文献】 資料を配付する。</p> <p>【学習する上での留意点】 現代では様々な新しい刺激が提示されていて、児童文化財にもその影響は及んでいる。その中には子どもにとっては刺激の強いものもある。子どもに人気のある映像やゲーム、TVアニメについて、実際の保育場面を観察して参考にすると良い。</p>